

「拓魂」

群馬県嬭恋村・中原開拓

群馬県の西端に位置し、長野県と接する吾妻郡嬭恋村は、周囲を2千^{メートル}級の山々に囲まれた人口約9千人の村。浅間山麓に広がる高原を有し、夏の冷涼な気候を活かした高原野菜の産地。夏秋キャベツの出荷量は、首都圏で約8割を占め、全国一の生産地である。また、数多くの温泉やスキー場などがあり、観光業が盛んである。

1946（昭和21）年、自作農創設特別措置法の施行により、群馬県でも開拓用地として未墾地の取得が計画的に行われた。約1万4千町歩が取得されたが、うち約6割を北西部の吾妻郡が占めた。嬭恋村では、浅間北麓の大笹地区の中原、山梨、大平などの開拓地に計83戸が入植した。

中原開拓地への入植は49年に始まり、入植者は、長野県小県郡にあった神川村（現・上田市）の分村計画による移住者や、大笹地区の出身者ら22戸。海外からの引揚者や農家の次男、三男の人たちだった。

標高1000～1400^{メートル}の高冷地。入植当初は、質素な宿舎での共同生活だった。入植者は寒さに耐え、木の伐採、原野の開墾を続けた。電気が導入されたのは58年、水道施設が整ったのは62年だった。

同村では50年頃から、キャベツが基幹作物になりつつあった。中原開拓地でもキャベツ栽培を営農の柱と決め、作付けに意欲的に取り組んだ。現在、浅間山を背景に広大なキャベツ畑が広がっている。減農薬など環境に配慮した栽培や品質の向上に取り組んでいる。

中原公民館の脇に開拓記念碑がある。78年、入植⁸⁰周年を記念して建立されたもので、碑銘は「拓魂」。裏面の碑文には、入植からの歩みが詳しく刻まれている。

入植当初について、「当時を回想すればただ黙々と汗と土にまみれ営々努力した開拓魂の長い歳月の辛苦のみを思い出す」とある。その後も営農は順調ではなかったことを記した上で、末尾には「かつての荒野に大型機械が逞しい響きを伝えて近代農村としての成功をたたえているかのような今眼を閉じて往時を回顧すればすべて懐かしい思い出に変わる」と記されている。

中原開拓 「拓魂」

- ①調査日 2018年5月28日
- ②所在 吾妻郡嬭恋村
- ③地区の沿革 昭和23年神川村の分村入植地に決定し、農家の次三男等を中心とする30名が24年に開拓団を組織し入植した。
- ④設置年月日 昭和53年11月
- ⑤設置者 入植者
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文(表面) 拓魂 元開拓連会長 高島照治 謹書
- ⑧碑文(裏面) 第二次世界大戦に敗れ打ちひしがれた人々は虚脱と混乱の中に希望を失っていた この時長野県神川村当局と農地委員会は食糧の増産と国土再建の一翼をすべく分村計画を立案し議決した昭和二十二年のことであった 先ず入植地を何処に求めるかで諸候補地の見分調査した結果浅間山山麓で群馬県側のこの地が神川村分村入植地に決定したのは翌二十三年であった 同年に入植希望者を募り二十四年に開拓団を組織した団長に山越修蔵副団長に北川太郎吉両氏を決定した団員総数は三十名で農家の次三男などを主として引場者戦災で家を失った者などさまざまであった 団員は新しい大地を拓き理想の村を建設すべく固い団結と意思を誓い合い勇躍して入植地に移住した 然しそれぞれが資金も無くその日の食にもことかくありさまであった 地味のやせた入植地の欠点や幾多の災害遭い時には絶望感に陥ったことも再三ではなかった今 当時を回想すればただ黙々と汗と土にまみれ営々努力した開拓魂の長い歳月の辛苦のみを思い出す 初の二ヵ年半間は共同生活を営み青春の血をたぎらして開拓の熱意一筋に頑張る人力と畜力により荒野もついに一戸当たり農耕地八十アールと住宅二十三、一平方メートルの成果を挙げ二十二戸の各自が独立自営することに成功した努力は遂に報いられたのである 然し独立農となっても土地の未確定問題などがあり営農は必ずしも順調では無かった その絶望に堪えられず数名の団員の入れ替えがあり前途多難を思わせたが昭和三十六年に待望の機械が導入されたことにより開墾はにわかに進歩をみるに至り一戸当たり三百六十アールの分配面積が完了し 将来に光明を見出すことができた 昭和三十三年には電気が導入され三十七年には水道施設が整った それぞれ独立した団員は酪農を始める者野菜を主とする者等 開拓地に適した営農形態により安定化の方向へと進んだが最終的には野菜1本に集約されたことにより収入も急激に増大した こうして三十年前に夢見た楽土はここに功を収め文化的生活を営むことができたのである かつての荒野に大型機械が逞しい響きを伝えて近代農村としての成功をたたえているかのような今眼を閉じて往時を回顧すればすべて懐かしい思い出に変わる この間母村神川村当局をはじめ地元嬭恋村当局 さらに又関係各機関の指導援助を受けた恩愛を心より感謝し 併せて共甘同苦して築き上げた団結と努力を子孫に伝えるため入植三十周年を記念しこの碑を建

てる

昭和五十三年十一月吉日 萩原 進 撰文 松村無心 書

記念碑建設委員氏名 入植者氏名

⑨現在の状況 地区内に建立され管理されている。

